

ドラム缶値上げ正念場

ドラム缶は、原料・鋼材の高騰を背景とした値上げ交渉が本格化している。鋼材価格は二〇〇二年下半期に一斗当たり五千円値上がりし、二〇〇三年上期には同三千円値上がりした。ここに至り、新年度となる四月からさらなる値上げが浮上する。なごドラム缶メーカーの収益をさらに圧迫させる懸念が強まっている。ドラム缶価格は強含みの展開にある。

2年で8千円

この二年間で値上がりした鋼材価格は同八千円。ドラム缶一缶が二十

四倍となることからドラム缶メーカーは一缶当たり百九十一二百円の負担を強いられている。昨年一本当たり百円以上の値上げを目指した価格修正に取り組んだが、実際は十円玉が数枚上乘せ

できたかどうかで、総体的としては価格が下げ止まっただけといわれている。

だが、二〇〇三年暮れから年明けにかけて鋼材の品薄感が拍車がかかり、鋼材価格の新たな値上げ打ち出しが浮上してきた。これら鋼材価格

の高騰は、中国市場の需要が上昇しているため、すでに日本市場の

ドラム缶メーカー

鋼材の高騰分吸収 急務に 春にさらなる上昇 懸念も

原材料高騰が直撃



価格より中国市場の価格帯のほうが上にあるという状況が長く続いている。

そのためアジア市場の鋼材価格は上昇、国内においても天井がみえないほど上げ足を速めている。二〇〇三年末には、二〇〇四年四月から鋼材

価格は三千円程の値上げがあるといわれていたが、年明けには五千円、

そして今では六千円に達するというと見方まで出てきた。その上、二〇〇四年下期には新たな価格修正がありそうだという予想も浮上し始めるほど鋼材価格は上げ一辺倒の基調にある。

輸送コスト増

さらにドラム缶のジャストインタイムでのデリバリー方式がコスト増の要因としてあがっている。受注状況によっては市中の高値鋼材を手当てしなくてはならない。ま

た、昨年十月に施行された排ガス規制対策による輸送トラックの買い替えや、排ガスシステムの手直しも大きな負担増となっている。これらのコスト増に耐えられなくなったドラム缶メーカー各社は、価格転嫁すべく、本腰を入れた値上げ交渉に動いている。現状の値上げ交渉は、これまでの八千円分に対してのもので、この春からの鋼材価格の値上がり分に関しては再度、ユーザーにお願いするへ、大手ドラム缶メーカー首脳）考えのようだ。

すでにステンレスドラムは、材料・ニッケルなどのひっ迫からステンレス鋼材の手当てが滞り始めている。購入計画の提出をユーザー側に要請し始めている。スチールドラムも鋼材の手当てが難発生となれば、ステンレス缶同様に購入計画の提出を要請する事態に陥るかもしれない。

新日本製鉄やJFEスチールなどの鋼材メーカーは鋼材販売に対し売り腰が強いことから、ドラム缶メーカーは鋼材手当て優先のためにも鋼材の値上げを受けざるを得ない。鋼材の調達不安がドラム缶メーカーの値上げ姿勢を一段と後押ししたかたちとなっている。ドラム缶の価格修正に強い姿勢で臨んでこよう。

原料手当て 購入計画の提出 要請 窮屈に